

「帰り道」

—私からあなたへのメッセージ

四川外国語大学重慶南方翻訳学院 舒浩

極普通の言葉でも人を極めて感動させ、涙を誘う時がある。何故ただの言葉がこんなマジックを持っているかと言えば、それは、言葉の中には、人間の共通の感情が含まれているからである。言葉そのものは抽象的なものでしかないが、自分の経験と繋がり、タイミングよく出てくる言葉は、思いがけない意味をもたらすことがある。

私にとって、そういう意味を持つ言葉は「帰り道」という言葉である。特別ではないが、私の数多の思い出を引き出せる非常に有意義な言葉だから。

どういう思い出かと言えば、頭にすぐ浮かぶのは、放課後、いつも自転車に乗って友達同士と喋ったり、笑ったりして一緒に家へ帰る、まるで全てが夕日の色に染まっているような中学時代なのだ。傍にいたのは親友だったから、言いたいことは何も考えずに言ってもいい、何の憂いもないとも言える頃だった。あの頃流行っていた話題などの楽しいことも、志望校などの進路について、悩んでいたことも、常に笑い声に混じって、涼しい風に乗って遠くまで飛んでいった。変わりのない道で、新鮮なことが絶えずに出てきた。遠いとは言えないあの帰り道に、中学校からの数え切れない思い出がいっぱい残っている。

高校三年生になって、私は高校の寮に住むことになったので、学校から遠くない家に週に一回、一日だけ歩いて帰るようになった。毎回、母は校門の前の交差点で私を待っていた。帰り道での私は、大したことでもないのにずっと言いつばなしで、一週間中のすべてを彼女に語りたと思っていた。演説家みたいな私と反対的に、母は何も言わずに聞いているだけだった。ある瞬間、黄金の夕陽に照らし出され、若干白髪を煌めく彼女を見つめて、過去の出来事を思い出したことがある。小さい頃もよくそういう黄金の夕陽にの中を、母と話し合いながら帰ったものだ。まだ白髪もなく、尚若かったあの頃の母も、知らず知らず、年を取ってきたのか。何か感謝の言葉を言いたかったが、実際に言い続けたのは、他愛もないことしかなかった。大きくなると、かえって思いが素直に表せないのか。私たちのような愛を隠した親子を見慣れた帰り道は、こういう気持ちをもっとよく分かるかもしれない。

大学に入り、帰り道はどんどん長くなってきた。故郷の友人とも、両親とも、どんなに会いたくてもよく交通機関で一日以上かかることを避けては通れない。時間にも空間にも距離があるが、帰り道で親友・家族と話し合ったことも、日常の出来事も、全てが貴重な記憶になって、脳内に焼き付けられてある。そう、「帰り道」そのものは簡単な言葉でしかないが、この言葉が意味するものは決して字面だけのものではない。無数の忘れられない日々がここに集められてあるから、この思い出の積もる「帰り道」は私にとって、既に友情と家族の愛の象徴になっている。この「帰る道」という言葉は、私と帰る道で歩く人へ伝えたい簡単に言えない感情を含めているゆえに、豊かな意味と詩的なロマンチズムを持っている。しかし、会うは別れの始め、時の流れとともに、傍にいる人はいつか離れる日が必ず来るから、今、この帰り道で会えた人を大事にしなければならないと思う。だからこそ、これから、あなたと一緒に帰る道で歩く、あなたの傍にいる人を大切にしてください。あなたが帰り道にいてくれてよかったと、その穏やかな幸せを感じながら生きてゆくの何よりだろう。これが僕からあなたへ伝えたいメッセージである。